



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月9日

上場会社名 杉田エース株式会社

上場取引所 東

コード番号 7635 URL <https://www.sugita-ace.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉田 裕介

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 佐藤 正 TEL 03-3633-5150

四半期報告書提出予定日 2022年11月9日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	32,003	28.7	4	—	93	—	△28	—
2022年3月期第2四半期	24,859	—	△250	—	△198	—	△179	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △27百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △170百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△5.32	—
2022年3月期第2四半期	△33.47	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2022年3月第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	33,977	10,187	30.0	1,898.78
2022年3月期	36,918	10,364	28.1	1,931.80

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 10,187百万円 2022年3月期 10,364百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2023年3月期	—	0.00			
2023年3月期(予想)			—	30.00	30.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,000	17.9	350	25.9	450	17.1	250	10.0	46.60

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	5,374,000株	2022年3月期	5,374,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	8,853株	2022年3月期	8,853株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	5,365,147株	2022年3月期2Q	5,365,147株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想の見直し等の記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第7波の急拡大に加え、ウクライナ情勢の長期化や急速な円安の進行等による原材料・エネルギー価格の高騰により、景気は依然として不透明な状況で推移しました。

住宅建設業界におきましては、持家の着工は弱含みとなりましたが、貸家及び分譲住宅の着工は底堅い動きとなり、首都圏のマンション総販売戸数はおおむね横ばいで全体としては底堅い動きで推移しました。

住宅建設業界におきましては、持家の着工は弱含みとなりましたが、貸家及び分譲住宅の着工は底堅い動きとなり、首都圏のマンション総販売戸数はおおむね横ばいで全体としては底堅い動きで推移しました。

このような経営環境下において、当社グループは主力事業の建築金物販売において材料費高騰に伴う資材価格の値上げに対して、VE提案を積極的に行い拡販に努めました。8月1日から9月30日において当社ECサイト「スギカウ」にて「スギカウ SUPER SALE 2022」を開催いたしました。また、長期保存食「IZAMESHI」については、7月に「煮込みハンバーグ」をリニューアル販売し、新商品「ひじきときのこのみぞれハンバーグ」を新発売いたしました。8月には、三島食品の人気ふりかけとコラボレーションした「三島食品 x IZAMESHI 三島のゆかり・かおり・あかりとおかゆ」を新発売いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高32,003百万円（前年同四半期比28.7%増）、営業利益4百万円（前年同四半期は250百万円の営業損失）、経常利益93百万円（同198百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失28百万円（同179百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の商品区分別売上高は次のとおりであります。

商品区分	ルート事業	直需事業	計	構成比
住宅用資材（百万円）	15,902	—	15,902	49.7%
ビル用資材（百万円）	11,686	—	11,686	36.5%
D I Y商品（百万円）	166	2,291	2,457	7.7%
O E M関連資材（百万円）	—	701	701	2.2%
その他（百万円）	1,255	—	1,255	3.9%
合計（百万円）	29,011	2,992	32,003	100.0%

① ルート事業（ルート事業は、金物販売店や建材商社、金属工事業者等へ住宅用資材及びビル用資材等を販売しております。また、設計・加工・施工機能による現場サポート営業も行っておりリニューアル専門会社、ゼネコン等へ多様な金属建材のオーダー対応等お客様の課題やニーズにあったソリューションの提供を行っております。）

ルート事業については、遅延していた工事物件が動き始めたことにより資材の販売が好調に推移しました。現場における新型コロナウイルス感染症対策が徹底されたことにより、職人不足については回復基調にて推移しました。また、資材不足や資材価格の高騰に対して様々なVE提案を積極的に行いました。さらに、フヨー株式会社を子会社化した事により、シーリング材、防水材等の消費材の販売が伸長しました。

この結果、ルート事業全体の売上高は29,011百万円（前年同四半期比31.4%増）となりました。

② 直需事業 (直需事業は、アウトドアファニチャー「PATIO PETITE」や長期保存食「IZAMESHI」、ガーデンアイテム、雑貨、DIY商品等をホームセンター、通販会社等へ販売しております。また、ハウスメーカーや建材メーカーへはOEM商品を含む建築金物を販売しております。)

直需事業については、DIY商材である各種補修材・塗料等の消耗資材が好調に推移しました。ライフスタイルの変化が続く中、EC市場は拡大しており依然として通販関連は堅調に推移しております。またホームセンター等リアル店舗は徐々に回復傾向にあります。OEM関連資材では、賃貸住宅向け商材の復調や、オフィス・ホテル物件へのドアクローザー等による非住宅系商材の販売は堅調に推移しました。

この結果、直需事業全体の売上高は2,992百万円(同7.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は23,862百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,679百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が820百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が1,362百万円、未収入金が438百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は10,114百万円となり、前連結会計年度末に比べ261百万円減少いたしました。これは有形固定資産が54百万円、無形固定資産が46百万円、投資その他の資産が159百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は33,977百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,940百万円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は17,983百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,082百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が623百万円、電子記録債務が925百万円、未払法人税等が136百万円、1年内返済予定の長期借入金が140百万円、短期借入金が115百万円、預り金が107百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は5,806百万円となり、前連結会計年度末に比べ680百万円減少いたしました。これは主に長期借入金697百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は23,790百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,763百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は10,187百万円となり、前連結会計年度末に比べ177百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失28百万円の計上と、剰余金の配当160百万円の支払いによるものであります。

この結果、自己資本比率は30.0% (前連結会計年度末は28.1%) となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月11日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,517	3,697
受取手形、売掛金及び契約資産	13,464	12,101
電子記録債権	3,195	2,901
棚卸資産	4,209	4,403
未収入金	1,094	655
その他	62	104
貸倒引当金	△2	△0
流動資産合計	26,542	23,862
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,013	4,013
その他(純額)	2,982	2,927
有形固定資産合計	6,996	6,941
無形固定資産		
のれん	961	913
その他	354	356
無形固定資産合計	1,316	1,269
投資その他の資産	2,063	1,903
固定資産合計	10,376	10,114
資産合計	36,918	33,977
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,193	6,570
電子記録債務	10,349	9,423
1年内返済予定の長期借入金	839	699
未払法人税等	211	74
賞与引当金	369	392
その他	1,102	822
流動負債合計	20,066	17,983
固定負債		
長期借入金	4,908	4,211
退職給付に係る負債	468	478
役員退職慰労引当金	590	610
資産除去債務	83	83
その他	435	422
固定負債合計	6,487	5,806
負債合計	26,553	23,790
純資産の部		
株主資本		
資本金	697	697
資本剰余金	409	409
利益剰余金	9,217	9,039
自己株式	△4	△4
株主資本合計	10,320	10,141
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51	49
退職給付に係る調整累計額	△7	△4
その他の包括利益累計額合計	44	45
純資産合計	10,364	10,187
負債純資産合計	36,918	33,977

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	24,859	32,003
売上原価	21,273	27,453
売上総利益	3,585	4,550
販売費及び一般管理費	3,836	4,546
営業利益又は営業損失 (△)	△250	4
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	5
仕入割引	50	63
受取家賃	23	27
その他	8	50
営業外収益合計	88	147
営業外費用		
支払利息	3	16
手形売却損	5	4
売上割引	25	32
その他	2	4
営業外費用合計	37	58
経常利益又は経常損失 (△)	△198	93
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	—	1
特別利益合計	—	1
特別損失		
固定資産除売却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	△199	94
法人税、住民税及び事業税	21	64
法人税等調整額	△41	59
法人税等合計	△19	123
四半期純損失 (△)	△179	△28
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△179	△28

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失 (△)	△179	△28
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	△2
退職給付に係る調整額	4	3
その他の包括利益合計	8	1
四半期包括利益	△170	△27
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△170	△27

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	△199	94
減価償却費	125	148
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4	2
のれん償却額	—	48
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△5	23
固定資産除売却損益 (△は益)	0	0
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△0	14
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	5	19
受取利息及び受取配当金	△5	△6
支払利息	3	16
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	2,756	1,648
棚卸資産の増減額 (△は増加)	171	△193
未収入金の増減額 (△は増加)	136	373
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,904	△1,550
その他の資産の増減額 (△は増加)	△42	28
その他の負債の増減額 (△は減少)	△376	△195
小計	△339	471
利息及び配当金の受取額	5	6
利息の支払額	△3	△16
法人税等の支払額	△235	△191
営業活動によるキャッシュ・フロー	△573	269
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	58
有形及び無形固定資産の取得による支出	△301	△75
投資有価証券の取得による支出	△2	△1
投資有価証券の売却による収入	2	82
貸付金の回収による収入	0	0
その他	△19	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△322	81
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△115
長期借入金の返済による支出	△237	△837
配当金の支払額	△160	△160
財務活動によるキャッシュ・フロー	△398	△1,113
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,294	△762
現金及び現金同等物の期首残高	3,826	4,459
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,532	3,697

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	ルート事業	直需事業	
売上高			
外部顧客への売上高	22,072	2,786	24,859
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	22,072	2,786	24,859
セグメント利益又は損失 (△)	410	△6	403

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	403
全社費用(注)	△653
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△250

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	ルート事業	直需事業	
売上高			
外部顧客への売上高	29,011	2,992	32,003
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	29,011	2,992	32,003
セグメント利益	736	3	740

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	740
全社費用 (注)	△736
四半期連結損益計算書の営業利益	4

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。